

コオイムシ科
(Belostomatidae)

コオイムシ科 (Belostomatidae)

調査者 片山 満秋、栗田 秀男、斎藤 晋、茶珍 護
土屋 清喜、宮原 義夫、山中 幹夫、峰村 宏

1 コオイムシ科の概況

カメムシ目コオイムシ科は、コオイムシ亜科とタガメ亜科からなり、国内にはコオイムシ亜科3種（コオイムシ、オオコオイムシ、タイワンコオイムシ）、タガメ亜科2種（タガメ、タイワンタガメ）が生息する（林・宮本 2005）。

県内にはコオイムシが12個体群生息するとみられるが、オオコオイムシは長谷川（1954）、Tomokuni（1982）の記録と、他に1個体の標本が確認されているだけである（群馬県 2012）。

タガメは1970年代にはいくつかの地域で採集されており標本も残されているが、1982年以降生息が確認されていない（群馬県 2012）。

群馬県レッドデータブック動物編 2012年改訂版ではコオイムシとオオコオイムシは情報不足、タガメは絶滅危惧Ⅰ類と評価されている。

このようなことから、コオイムシ科の生息場所を調査し現在の状況を把握して、保全のための基礎資料を得ることが必要と思われるので、2012年から3年間の計画で調査を始めた。

2 調査地域と調査方法

2012年は2回の調査を行った。1回目は8月9日、高崎市榛名町支所周辺を流れる榛名川と滑川の川岸および倉渚町水沼にある小さな湧水域である（図1）。

2回目は10月24日、みなかみ町月夜野にある大峰沼、古沼とその周辺の4つの沼である（図2）。

いずれの調査域でも掬い網を用い、定性的に採集し、同定に必要な最小数の個体を持ち帰った。また、水温、一部の水域ではpHを測定した。

3 調査結果と考察

榛名町、榛名川と滑川では目的としたコオイムシ科の動物は確認できなかった。渇水のため例年に比べ、川の水量も少なく、川岸には水溜りがほとんどなかったことが影響していると思われる。

倉渚町水沼付近の調査域は以前、水田であったが現在は耕作されておらず、小さな湧水が流れ込んでいる。降水が少なかったためか水が少なく、泥状の部分が多くみられた。また、イノシシが掘った跡があり、そのくぼ地に水溜りができていた。水域は長さ4～5m、幅20～50cm、水深は10～20cmであり、水温は19.5～21.6、pHは6.4～6.6で、傍らに1本のカワヤナギがあり、ミゾソバ、コバギボウシなどが水域を覆っていた。ここではコオイムシを9個体確認した。これらの齢別個体数を表1に示した。他にサワガニ数個体が確認された。

大峰沼ではコオイムシ（体長19～20mm）と、他にコオイムシよりやや大きい（体長22～23mm）個体（いずれも成虫）が多数生息することが確認できた。

林・宮本（2005）によれば、コオイムシの体長は17～20mm、オオコオイムシは23～26mmである。体長だけから推測すると大峰沼の大きい個体はオオコオイムシの可能性もあり、現在同定中である。

大峰沼、古沼とその周辺の池沼では、コオイムシ科以外にも貴重な種が確認されたので、水温、pH（一部の池沼）とともにこれらを表2に示した。

前述のように、県内には12個体群のコオイムシが生息するとみられるが、本年の調査で確認された倉渚町水沼付近と大峰沼の2か所の個体群はいずれも既知の12個体群の中に含まれている。



図1 倉渚町調査地

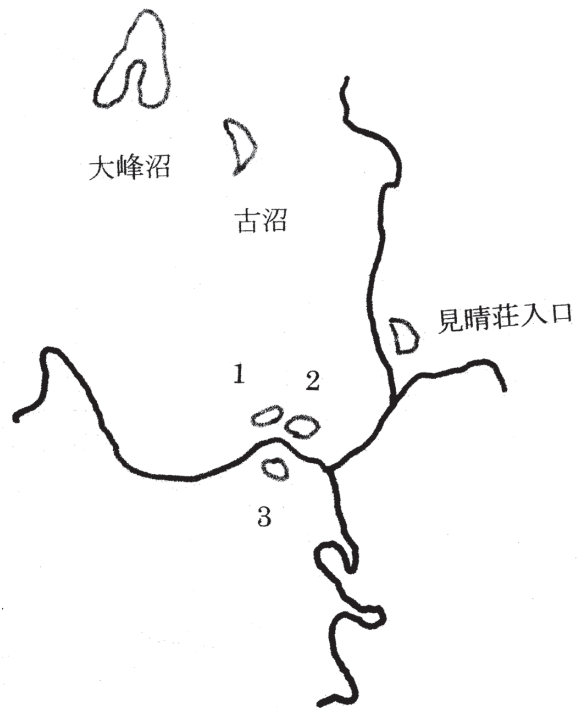


図2 大峰沼、古沼付近の調査地

表1 倉渚町水沼の湧水で確認されたコオイムシの齢期と個体数

2012. 8. 9

齢期	2	3	4	成虫
個体数	2	4	2	1

表2 大峰沼、古沼とその付近の池沼で確認した種など

(○は個体確認、●は筒巢確認、△は巢材として切り取った葉片確認したことを示す)

2012. 10. 24

		大峰沼	古沼	見晴荘入口	池沼①	池沼②	池沼③
	水温°C	7.0~7.5	8.3	9.8~14.2	8.8	9.8	9.0
	pH	6.0	6.1				
<i>Cynops pyrrhogaster</i>	アカハライモリ	○					
<i>Hynobius nigrescens</i>	クロサンショウウオ成体、幼生		○		○	○	
<i>Rhacophorus arboreus</i>	モリアオガエル幼生	○					
<i>Aeschna juncea</i>	ルリボシヤンマ幼虫	○					
<i>Anax nigrofasciatus nigrofasciatus</i>	クロスジギンヤンマ幼虫		○	○			
<i>Anax parthenope julius</i>	ギンヤンマ幼虫		○				
<i>Somatochlora uchidai</i>	タカネトンボ幼虫		○	○			
<i>Libellula quadrimaculata</i>	ヨツボシトンボ幼虫	○		○			
<i>Ranatra chinensis</i>	ミズカマキリ		○				
<i>Notonecta (Paranecta) triguttata</i>	マツモムシ	○					
<i>Sialis</i> sp.	センブリ属幼虫	○		○			
<i>Agabus conspicuus</i>	クロズマメゲンゴロウ	○	○				
<i>Agabus japonicus</i>	マメゲンゴロウ		○		○		○
<i>Cybister brevis</i>	クロゲンゴロウ			○	○		
<i>Cybister japonicus</i>	ゲンゴロウ		○				
<i>Eobasillisa regina</i>	ムラサキトビケラ幼虫				○		○
<i>Nemotaulius admorsus</i>	エグリトビケラ幼虫				○	○	
<i>Nothopsyche</i> sp.	ホタルトビケラ属		●				
<i>Anisocentropus</i> sp.	コバントビケラ属				△		△
<i>Cipangopaludina chinensis</i>	マルタニシ	○					

4 保全の現状

倉渚町水沼の小さな湧水域は、周囲が水田であったと思われるが、現在はほとんど耕作されていない。水域内とその周辺ではイノシシにより掘り起こされたと思われる痕が所々で見られた。

人為的に環境が急変する可能性は低いと考えられるが、イノシシによる環境破壊や一部のマニアによる捕獲が懸念される。

大峰沼は「大峰沼浮島及び湿原植物」として、古沼は「モリアオガエル生息地」としてそれぞれ県の天然記念物に指定されている。近年、大峰沼、古沼に比較的近く、コオイムシや数種のゲンゴロウなど貴重な種が生息する池沼で、マニアによる採集が行われているとの情報もあり、捕獲による個体数の減少が懸念される。また、ブルーギルの生息が確認された池沼があった。

引用文献

群馬県 (2012) 群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 動物編, 301pp.

長谷川 仁 (1954) 尾瀬ヶ原の半翅類, 尾瀬ヶ原 尾瀬ヶ原総合学術調査団研究報告, 746-757. 日本学術振興会.

林 正美, 宮本正一 (2005) 半翅目, 日本産水生昆虫, 291-378. 東海大学出版会.

Tomokuni, Masaaki (1982) The heteropterous fauna of Ozegahara Moor and its adjacent area. Ozegahara : Scientific Researches of the High Moor in Central Japan, 347-353. 日本学術振興会.

(峰村 宏)

